

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2. 原体混在物及び代謝物

(1) 急性毒性

1) 急性経口毒性

混在物①()のマウスを用いた急性経口毒性試験 (資料 9-1-1)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

混在物②、代謝物(動物、植物、土壌、光分解) のマウスを用いた急性経口毒性試験
(資料 9-1-2)

。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

混在物③ のマウスを用いた急性経口毒性試験

(資料 9-1-3)

試験機関： ボゾリサーチセンター

(GLP 対応)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

混在物④ のラットを用いた急性経口毒性試験

(資料 9-1-4)

試験機関: ボゾリサーチセンター

(GLP 対応)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

混在物④ のマウスを用いた急性経口毒性試験

(資料 9-1-5)

試験機関: ボゾリサーチセンター

(GLP 対応)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

混在物⑥ の急性経口毒性 [文献] (資料 9-1-6)
 の生物学的データ

上記文献より、 の急性経口毒性に関する部分を抜粋した。

結 果: LD₅₀ 値

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

混在物⑦ の急性経口毒性 [文献] (資料 9-1-7)

貯水池における の最大許容濃度に関する衛生学的論拠

上記文献より、 の急性経口毒性に関係する部分を抜粋した。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(植物、土壌) の急性経口毒性 [文献] (資料 9-1-8)

貯水池における と の最大許容濃度に関する
衛生学的論拠

上記文献より、 の急性経口毒性に関係する部分を抜粋した。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、土壌、光分解) の急性経口毒性 [文献] (資料 9-1-9)

:刺激、感作及び急性経口毒性、遺伝毒性及び生物試料の分析

上記文献より、 の急性経口毒性に関する部分を抜粋した。

1)ラットを用いた急性経口毒性試験

検体純度:

試験動物:

試験期間:

方 法:

試験項目:

結 果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2) マウスを用いた小核試験用量設定試験

検体純度:

試験動物:

試験期間:

方 法:

試験項目:

結 果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、光分解) のマウスを用いた急性経口毒性試験 (資料 9-1-10)
試験機関: ポゾリサーチセンター
(GLP 対応)
報告書作成年: 2000 年

検体純度:

試験動物:

試験期間:

方 法:

試験項目:

結 果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物) のマウスを用いた急性経口毒性試験 (資料 9-1-11)

試験機関: ポゾリサーチセンター

(GLP 対応)

報告書作成年: 2000 年

検体純度:

試験動物:

試験期間:

方 法:

試験項目:

結 果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、土壌、光分解)

のマウスを用いた急性経口毒性試験

(資料 9-1-12)

試験機関: ボンリサーチセンター

(GLP 対応)

報告書作成年: 2000 年

検体純度:

試験動物:

試験期間:

方 法:

試験項目:

結 果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、光分解) の急性経口毒性 [文献] (資料 9-1-13)

の毒性及び血糖降下作用

上記文献より、 の急性経口毒性に関する部分を抜粋した。

検体名称:

試験動物:

結 果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、光分解)

のマウスを用いた急性経口毒性試験

(資料 9-1-14)

試験機関: ボゾリサーチセンター

(GLP 対応)

報告書作成年: 2000 年

検体名称:

検体純度:

試験動物:

試験期間:

方 法:

試験項目:

結 果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、光分解)

のマウスを用いた急性経口毒性試験

(資料 9-1-15)

試験機関: ボゾリサーチセンター

(GLP 対応)

報告書作成年: 2000 年

検体名称:

検体純度:

試験動物:

試験期間:

方 法:

試験項目:

結 果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、土壌、光分解)

のマウスを用いた急性経口毒性試験

(資料 9-1-16)

試験機関: ボンリサーチセンター

(GLP 対応)

報告書作成年: 2000 年

検体名称:

検体純度:

試験動物:

試験期間:

方 法:

試験項目:

結 果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2) 遺伝子突然変異原性試験

混在物①

の細菌を用いた復帰突然変異試験

(資料 9-2-1)

試験機関: ボゾリサーチセンター

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

1 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

混在物②、代謝物(動物、植物、土壌、光分解) の細菌を用いた復帰突然変異試験
(資料 9-2-2)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

1 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

混在物③ の細菌を用いた復帰突然変異試験

(資料 9-2-3)

試験機関：新日本科学

(GLP 対応)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

1 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

混在物④ の細菌を用いた復帰突然変異試験

(資料 9-2-4)

試験機関：新日本科学

(GLP 対応)

報告書作成年：1999 年

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

1 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2 回目試験

No.	試験項目	試験内容	試験結果						
			合格	不合格	理由				
					試験官	試験官	試験官		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

混在物⑥ の細菌を用いた復帰突然変異試験 [文献] (資料 9-2-5)

検体純度:

試験方法:

試験結果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

試験結果表

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

混在物⑦ の細菌を用いた復帰突然変異試験 [文献] (資料 9-2-6)

検体純度:

試験方法:

試験結果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(植物、土壌) の細菌を用いた復帰突然変異試験 [文献] (資料 9-2-7)

検体純度:

試験方法:

試験結果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

試験結果表

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、土壌、光分解) の細菌を用いた復帰突然変異試験 [文献]
(資料 9-2-8)

検体純度:

試験方法:

試験結果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

試験結果表

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、光分解) の細菌を用いた復帰突然変異試験 (資料 9-2-9)
試験機関: 新日本科学
(GLP 対応)
報告書作成年: 2000 年

検体純度:

試験方法:

試験結果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

1 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物) の細菌を用いた復帰突然変異試験 (資料 9-2-10)

試験機関: 新日本科学

(GLP 対応)

報告書作成年: 2000 年

検体純度:

試験方法:

試験結果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

1 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、土壌、光分解)

の細菌を用いた復帰突然変異試験

(資料 9-2-11)

試験機関: ボゾリサーチセンター

(GLP 対応)

報告書作成年: 1999 年

検体純度:

試験方法:

試験結果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

1 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、光分解)

の細菌を用いた復帰突然変異試験 (資料 9-2-12)

試験機関: 新日本科学

(GLP 対応)

報告書作成年: 2000 年

検体名称:

検体純度:

試験方法:

試験結果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

1 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、光分解)

の細菌を用いた復帰突然変異試験

(資料 9-2-13)

試験機関: 新日本科学

(GLP 対応)

報告書作成年: 2000 年

検体名称:

検体純度:

試験方法:

試験結果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

1 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、光分解)

の細菌を用いた復帰突然変異試験

(資料 9-2-14)

試験機関: 新日本科学

(GLP 対応)

報告書作成年: 2000 年

検体名称:

検体純度:

試験方法:

試験結果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

1回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2 回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

代謝物(動物、植物、土壌、光分解)

の細菌を用いた復帰突然変異試験

(資料 9-2-15)

試験機関: ボゾリサーチセンター

(GLP 対応)

報告書作成年: 1999 年

検体名称:

検体純度:

試験方法:

試験結果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

1回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2回目試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

3) 染色体異常誘発性

混在物④ の CHL/IU 細胞を用いた *in vitro* 染色体異常試験 (資料 9-3-1)

試験機関: ビー・エム・エル

(GLP 対応)

報告書作成年: 1997 年

検体純度:

試験方法:

試験結果: 結果を次表に示した。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

試験結果表

1) 直接法 (24 および 48 時間処理)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

2) 直接法 (24 および 48 時間処理) 確認試験

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

3)代謝活性化法(6時間処理及び18時間回復)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

4)小核試験

混在物④ のげっ歯類を用いた小核試験

(資料 9-4-1)

試験機関： オリンパス光学工業株式会社

染色体研究センター(CRC)

(GLP 対応)

報告書作成年： 1996 年

検体純度：

試験動物：

試験方法：

用量設定根拠：

試験結果：

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

以上の結果から、本試験条件下において、検体はマウス骨髄細胞に対し、小核赤血球を誘発せず、染色体異常誘発性は陰性と判断される。

本試験結果表

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

5) DNA 損傷誘発性

混在物④ のラット肝細胞を用いた in vivo/in vitro 不定期 DNA 合成(UDS)試験

(資料 9-5-1)

試験機関: (財)食品農医薬品安全性評価センター

(GLP 対応)

報告書作成年: 1997 年

検体純度:

試験動物:

試験方法:

用量設定根拠:

試験結果:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学株式会社にある。

本試験結果表
